

日本の高校生における英語聴解力と読解力の実態調査 － 筋道を追った情報統合力と内容把握力 －

A Study on English Listening and Reading Comprehension Ability of Japanese High School Students

岡野 冬香 椎名 紀久子

1. はじめに

これまでに、いくつかの私立高等学校で英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディングの授業を担当してきたなかで、高校生は英語の「まとまりのある話」を聞いたり、「まとまりのある文章」を読んだりすることが極めて苦手な傾向にあると気づいた。この「まとまりのある」話や文章とは、『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』¹によれば、ある一定量の情報や筆者（話者）の意図を含む一貫した流れのある（文脈のある）複数の文から成るもので、例えば、リーディングでは、本や新聞、雑誌などの記事や広告文、説明文、情報通信ネットワークの文章を指す。OCⅠの場合、スピーチ、プレゼンテーション、講演、テレビ・ラジオのコマーシャルやニュース、ドラマ・映画の場面などで一定の情報や考えを含んだものを指す。これについて指導要領では、これらのまとまりのある話や文章の読解や聴解を通して、「メモを取る」、「英語の文章の流れに慣れる」、「必要な情報を得る」、「概要や要点をまとめる」、「書き手の意向などを理解」し、「自分の考えなどをまとめ、伝える」ことなどの言語活動ができるようになることを求めている。これらはいずれもコミュニケーションに成功するうえで必須の言語活動で、話や文章を「総合的に理解」してこそ可能になる活動である。そこで、一般的に高校生は、本当にこのような「まとまりのある話や文章を総合的に理解すること」が不得手なのかどうか、不得手だとしたら何がどう問題なのかについて明らかにしたいと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、高校生が読解や聴解において、「筋道を追って必要な情報（要点）を抽出して統合し、概略を把握したり話者の意図を理解したりする力が弱い」という言説の実態をデータにより検証し、授業改善への示唆を得ることであった。

3. 研究の仮説

日本の高校生は英語の読解力と聴解力において次のような問題点がある。

- 1) まとまりのある文章の段落構成や文脈の展開を把握する力が弱い。
- 2) 話の筋道を追って必要な情報（要点）を抽出し統合する力が弱い。
- 3) その結果、概略を把握する力、話者の意図や言外の情報を把握する力、対話の場

面や状況を理解する力が弱い。

4. 研究の方法

4.1 分析材料 * () 内は実施機関を示す。

- 1) 高等学校教育課程実施状況調査（国立教育政策研究所教育課程研究センター）²
- 2) 広島県高等学校共通学力テスト（広島県教育委員会）³
- 3) センター模擬試験
 - (1) 全統マーク模試（河合塾）⁴
 - (2) 全国センター模試（代々木ゼミナール）⁵

4.2 分析方法

分析材料の1)と2)では、「まとまりのある文章の読解力」と「対話文とモノローグの聴解力」に分けて、報告書に記載されている結果を分析し考察した。3)については、予備校が報告する模擬試験の成績結果を参照に設問内容別平均正答率の一覧表を作成して観察し、正答率の低い設問の内容を分析し考察する。

5. まとまりのある文章の読解力

文章の流れや構造に注意しながら内容を把握する読解力調査の結果は以下の通りである。

5.1 平成17年度高等学校教育課程実施状況調査⁶

- 1) 実施日：平成17年11月10日
- 2) 実施機関：国立教育政策研究所教育課程研究センター
- 3) 対象者と調査科目：国公立立高等学校の第3学年 29,880名、英語 I
- 4) 調査目的：高等学校学習指導要領（平成11年告示）に基づく教育課程の実施状況調査
- 5) 調査結果と考察
 - (1) 英文(210～230語程度)を読んで文章全体の流れを読み取り、その概要や要点を答える設問では、通過率が設定通過率を下回った。「場面や状況を正しく理解することができないために、誤ってとらえた一部の情報にとらわれて誤答を選ぶ傾向がある」。
 - (2) 文章の構成や論理展開を把握する問題では、空所に適切な語句を補充する設問の通過率が設定通過率を下回った。これは、「文章の流れを理解せず、知っている成句を当てはめて解答している」ことによる。

5.2 平成17年度広島県高等学校共通学力テスト⁷

- 1) 実施日：平成17年11月17日
- 2) 実施機関：広島県教育委員会
- 3) 対象者と調査科目：全公立高等学校の第1学年と第2学年
 - 第1学年：OC I（オーラルコミュニケーション I）：13校 1,140名、
英語 I：94校 16,234名
 - 第2学年：OC I：5校 753名
英語 I：92校 15,845名

- 4) 調査目的：学習指導要領における教科・科目の目標や内容達成の状況把握
- 5) 調査結果と考察：第1学年、第2学年に共通して通過率（正答または準正答であった生徒の割合）が低かった問題は、読んだ内容の概要や要点を把握し、自分のことばで説明する問題であった。その詳細は表1に示したが、無答率と誤答率を合算すると、第1学年のOC Iでは約84%、英語 Iでは約63%の生徒が、読んだ内容を部分的には理解できても、要点を記憶に留めて、最終的にそれらを統合する概要把握ができていない。なおこの傾向は第2学年では減少している。その間の指導が効を奏していることがうかがえる。

表1 読んだ内容の要点・概要を把握し自分のことばで説明する問題の成績（%）

第1学年			第2学年		
問題	OC I	英語 I	問題	OC I	英語 I
通過率	16.3	37.1	通過率	53.8	43.5
無答率	42.8	24.5	無答率	26.4	38.9
誤答率	40.9	38.4	誤答率	19.8	17.6

6. 対話文とモノローグの聴解力

対話文を聞いて話し手の意図を理解したり、モノローグを聞いて話の構成や概要、要点を把握したりする英語聴解力の調査結果は次のとおりである。

6.1 平成17年度高等学校教育課程実施状況調査

5.1と同一のテストによる聴解力調査の結果は次のとおりである。

- 1) 対話応答問題：「定型表現ではなく相手の意図を理解して適切に対応するような問題については、通過率が設定通過率を大きく下回っており、課題を残している」。
- 2) 詳細理解問題：絵を見ながら会話を聞き、質問の答えとして適切なものを選択する問題であるが、複数の詳細な情報（例えば、数字等）を組み合わせる聞き、明言されていない事実を導き出す設問で通過率が設定通過率を下回った。

6.2 平成17年度広島県高等学校共通学力テスト⁸

対話形式の問題で、第1学年では、「対話の一部は聞き取れているが、対話全体の内容を正しく把握することはできていない」、第2学年は、「対話が行われている場面や状況を十分理解できない」、「聞こえてくる英語を単文レベルでは理解することはできるが、対話全体の内容を把握したり、対話全体から答えを推測したりすることができていない」。

6.3 平成18年度広島県高等学校共通学力テスト⁹

- 1) 実施日：平成18年11月15日
- 2) 実施機関：広島県教育委員会
- 3) 対象者：全公立高等学校の第1学年と第2学年
 第1学年 OC I：11校 750名、英語 I：96校 16,202名
 第2学年 OC I：4校 561名、英語 I：93校 15,367名

(140)

- 4) 調査目的：学習指導要領における教科・科目の目標や内容達成の状況を把握する。
- 5) 調査結果：第2学年のOC I の5～7文程度の英文を聞き、概要や要点を把握する問題では、表2に示したように、概要・要点把握問題は他の設問に比べて平均通過率が圧倒的に低い。「聞こえてくる英文の一部は理解できるが、全体の内容を把握したり、場面を推測したりすることができていない」。

表2 第2学年OC I 「聞くこと」の設問別平均通過率

設問	設問内容	平均通過率 (%)
1	応答問題	53.1
2	メモを取る問題	75.6
3	詳細理解問題	56.0
4	概要・要点把握問題	33.3

7. 大学入試センター試験とセンターの模擬試験にみられる英語読解力と聴解力

7.1 各設問の出題意図と出題形式（2006年度以前）

観察の対象にした試験問題と関連資料は4.1の分析材料で述べた。主に読解力を問う「筆記問題」と、聴解力を問う「リスニングテスト」の出題意図と出題形式は表3に示した。出題意図は『試験問題評価委員会報告書』¹⁰にまとめられたものを、語数に関しては予備校の「出題傾向と対策」¹¹を参照して表を作成した。設問の分析はセンター試験の出題意図に従って、本研究に関連する1) から4) の設問に限定して観察した。

読解力（筆記問題）

1) 叙述文の論理構成把握力（第3問）

叙述文の論理構成を把握して、筋道立てて読み取らせる力

2) 物語文を読み、話の展開、作中人物の心情、概要を理解する力（第6問）

話の展開、作中人物の心情、概要の理解など、文章全体を読んで必要な情報を組み合わせる力

聴解力（リスニングテスト）

3) 20～30語の比較的短い対話文を聞いて言外の情報をくみ取る力（第2問）

4) 60～90、200語程度のモノローグを聞いて要点や概要を掴む力（第4問）

7.2 結果と考察

センターの模擬試験の成績結果を参照して、設問ごとに正答率を抽出したものが表4、それを正答率の低い順に並べ替えたものが表5である。

7.2.1 設問別平均正答率

表5に示したように、いずれの模試においても文章の論理構造や話の展開を掴み、要点を抽出して概要や心情を理解させる第3問と第6問の平均正答率は下位3位以内にある。リスニングテストでは、対話文やモノローグを聞いて話者の意図、言外の情報、要点・概要

の把握を必要とする第2問と第4問も下位3位以内にあり、受験者にとって難易度が高い。
次にこれらの大問ごとに結果を考察する。

表3 各設問の出題意図・出題形式 (2006年度以前)

設問	出題意図	出題形式	
筆	全体	単語の発音、語強勢、文強勢を問う	
	1 A	単語レベルの第1アクセント(第1強勢)の位置を識別する	下線部の単語のアクセントの位置が正しい組み合わせのものを4つの選択肢の中から1つ選ぶ
	B	談話レベルにおいて情報の流れに沿って強形、弱形などの音調核の変化を識別する	下線部を引いた一文の中で最も強調して発音される語を4つの選択肢の中から1つ選ぶ
	2 全体	会話表現における文法的能力、社会言語的能力、談話能力を問う	
	A	動詞、助動詞、副詞句、慣用表現など語彙や語法、文法、表現の知識を測る	与えられた英文の空所に入れるのに適切なものを4つの選択肢の中から1つ選ぶ
	B	「依頼する」「質問する」などの言語機能の理解と談話スキル知識を測る	空所の前後の発話に注意して、会話の流れに合うものを4つの選択肢の中から1つ選ぶ対話文補充問題
	C	語句整序による統語的知識を測る	5つの語句を並べ替えて、2番目と4番目にくる語句を5つの選択肢の中から1つずつ選ぶ
	3 全体	叙述文における論理構成を把握する能力を問う	
	A	100～120語程度の英文を読み、一般的に連結詞と呼ばれている接続詞や副詞(句)などを補充することにより文章を完成させる	文章中の空所に入れるのに適切な語句を4つの選択肢の中から1つ選ぶ
	B	50～100語程度の英文を読み、文を補充することにより、論理的に一貫性を持った談話を構成する	文章中の空所に入れるべき3文を論理的な文章を構成するのに適切な配列にしたものを6つの選択肢の中から1つ選ぶ
	C	Bと同趣旨であるが、300語程度の英文を読み、選択肢をそれぞれ異なった段落に挿入するという点で、文章全体の談話構成をより多くの角度から考えさせる	3文与えられ、各文を適切な箇所に入れる
	記	全体	約530語の英文による情報と図やグラフから読み取った情報を総合的に処理する能力を測る
4 A		内容を読み取ってグラフを完成する	グラフに対応する正しい組み合わせをもつものを6つの選択肢の中から1つ選ぶ
B		グラフも参考にして、内容の理解を問う	与えられた英文の空所を補充するのに適切なものを4つの選択肢の中から1つ選ぶ
5 全体		約520語の会話文の情報を理解し、状況にふさわしい表現を使う能力を測る	
A		会話において適切に反応する能力を問う	3文与えられ、各文を適切な箇所に入れ意味の通る会話文を完成させる
B		会話と絵を関連付けて理解する能力を問う	質問に対し適切な絵や場所を6つの選択肢の中から1つ選ぶ
C			
D		会話の内容理解を総合的に問う	会話の内容と合っているものを6つの選択肢の中から2つ選ぶ
6 全体		700～800語程度の物語性のあるテキストを読み、本文中の事実関係や作中人物の心情を読み取り、作品の全体像を把握する能力を見る	
A		内容理解とそれを土台とした推定能力を問う	各問いに対する答えとして適切なものを4つの選択肢の中から1つ選ぶ
B		本文の全般に渡った内容理解を問う	本文の内容と合っているものを8つの選択肢の中から3つ選ぶ
リスニング		1	絵、図、表などが用いられた15～30語程度の比較的平易な英語を聞いて、内容を理解させる
	2	20～30語程度の比較的平易な対話を聞いて、場面、目的、言語の働きなどを理解し、適切に反応することができるか否かを見る コミュニケーション能力の文法能力、社会言語的能力、談話的能力、方略的能力を短い時間で駆使する必要がある	対話文を聞いて、場面の状況を把握し、最後の発話に対し適切な応答文を4つの選択肢の中から1つ選ぶ
	3 A	45～50語程度の比較的平易な対話を聞いて、その場面や、話者の意図を適切に理解できるか否かを見る	書かれた質問に対する適切な答えを書かれた4つの選択肢の中から1つ選ぶ
	B	150語程度の比較的長い対話を聞いて、絵、図、表などを使用し、場面や話者の意図を理解する能力を問う	時間の推移や位置関係を捉える問題で、書かれた6つの選択肢の中から適切なものを1つ選び、図表を完成する
	4 A	60～90語程度の対話以外のまとまりのある話を聞いて、要点や概要を掴むことができるか否かを見る	書かれた質問に対する適切な答えを書かれた4つの選択肢の中から1つ選ぶ
	B	200語程度の少し長いまとまりのある話を聞いて、要点や概要を掴むことができるか否かを見る	書かれた質問に対する適切な答えを書かれた4つの選択肢の中から1つ選ぶ

表4 各設問ごとの平均正答率

2006年河合塾					
	設問	第1回	第2回	第3回	全回
		正答率	正答率	正答率	平均
筆記	1	51.3	63.1	59.4	57.9
	2	49.5	53.7	56.8	53.3
	3	36.2	46.8	54.7	45.9
	4	41.7	51.1	57.1	50.0
	5	48.4	53.8	74.1	58.8
	6	48.7	48.2	56.9	51.3
リスニング	1	55.0	75.8	41.7	57.5
	2	35.7	48.6	62.1	48.8
	3	71.7	60.8	62.5	65.0
	4	52.5	61.7	48.3	54.2

表5 平均正答率の低い順

2006年河合塾					
	設問	第1回	第2回	第3回	全回
		正答率	正答率	正答率	平均
筆記	3	36.2	46.8	54.7	45.9
	4	41.7	51.1	57.1	50.0
	6	48.7	48.2	56.9	51.3
	2	49.5	53.7	56.8	53.3
	1	51.3	63.1	59.4	57.9
	5	48.4	53.8	74.1	58.8
リスニング	2	35.7	48.6	62.1	48.8
	4	52.5	61.7	48.3	54.2
	1	55.0	75.8	41.7	57.5
	3	71.7	60.8	62.5	65.0

2006年代々木ゼミナール						
	設問	第1回	第2回	第3回	第4回	全回
		正答率	正答率	正答率	正答率	平均
筆記	1	55.6	58.1	61.3	69.4	61.1
	2	43.4	43.9	49.5	52.6	47.4
	3	28.8	44.1	43.8	57.4	43.5
	4	50.3	34.0	61.4	67.4	53.3
筆記	5	46.3	65.0	68.1	52.2	57.9
	6	45.3	44.7	56.7	49.8	49.1
リスニング	1	71.7	46.7	74.2	74.2	66.7
	2	50.0	39.3	48.6	60.7	49.7
	3	86.7	49.2	58.3	80.8	68.8
	4	50.0	45.8	41.7	56.7	48.6

2006年代々木ゼミナール						
	設問	第1回	第2回	第3回	第4回	全回
		正答率	正答率	正答率	正答率	平均
筆記	3	28.8	44.1	43.8	57.4	43.5
	2	43.4	43.9	49.5	52.6	47.4
	6	45.3	44.7	56.7	49.8	49.1
	4	50.3	34.0	61.4	67.4	53.3
筆記	5	46.3	65.0	68.1	52.2	57.9
	1	55.6	58.1	61.3	69.4	61.1
リスニング	4	50.0	45.8	41.7	56.7	48.6
	2	50.0	39.3	48.6	60.7	49.7
	1	71.7	46.7	74.2	74.2	66.7
	3	86.7	49.2	58.3	80.8	68.8

2005年代々木ゼミナール						
	設問	第1回	第2回	第3回	第4回	全回
		正答率	正答率	正答率	正答率	平均
筆記	1	48.8	55.0	60.0	57.5	55.3
	2	43.3	53.0	63.8	57.5	54.4
	3	38.8	32.6	62.1	60.9	48.6
	4	46.0	35.4	59.1	67.1	51.9
筆記	5	40.0	38.7	38.7	71.7	47.3
	6	39.3	36.0	60.2	68.0	50.9
リスニング	1	78.3	58.3	60.0	76.7	68.3
	2	40.7	55.0	72.1	65.7	58.4
	3	62.5	67.5	70.8	60.8	65.4
	4	38.9	52.2	40.6	65.0	49.2

2005年代々木ゼミナール						
	設問	第1回	第2回	第3回	第4回	全回
		正答率	正答率	正答率	正答率	平均
筆記	5	40.0	38.7	38.7	71.7	47.3
	3	38.8	32.6	62.1	60.9	48.6
	6	39.3	36.0	60.2	68.0	50.9
	4	46.0	35.4	59.1	67.1	51.9
筆記	2	43.3	53.0	63.8	57.5	54.4
	1	48.8	55.0	60.0	57.5	55.3
リスニング	4	38.9	52.2	40.6	65.0	49.2
	2	40.7	55.0	72.1	65.7	58.4
	3	62.5	67.5	70.8	60.8	65.4
	1	78.3	58.3	60.0	76.7	68.3

2004年代々木ゼミナール						
	設問	第1回	第2回	第3回	第4回	全回
		正答率	正答率	正答率	正答率	平均
筆記	1	50.0	53.1	71.9	69.4	61.1
	2	48.7	50.8	43.4	62.6	51.4
	3	44.1	33.5	44.4	48.2	42.6
	4	61.1	56.0	56.6	57.7	57.9
筆記	5	48.1	60.6	39.7	51.9	50.1
	6	44.4	49.6	54.7	60.9	52.4

2004年代々木ゼミナール						
	設問	第1回	第2回	第3回	第4回	全回
		正答率	正答率	正答率	正答率	平均
筆記	3	44.1	33.5	44.4	48.2	42.6
	5	48.1	60.6	39.7	51.9	50.1
	2	48.7	50.8	43.4	62.6	51.4
	6	44.4	49.6	54.7	60.9	52.4
筆記	4	61.1	56.0	56.6	57.7	57.9
	1	50.0	53.1	71.9	69.4	61.1

7.2.2 叙述文の論理構成把握力（筆記問題 第3問）

大学入試センターの報告書¹²によれば、2005年度センター試験の本試験で、論理構成を把握させる第3問全体の正答率は50%弱程度と、大問中で最も低い得点だった。河合塾の模擬試験でも、表6に示したように、与えられた文を入れるのにふさわしい箇所を選ぶことで、文章全体の談話構成を考えさせる問題Cの成績が特に低い。原因の一つに、問題Cの出題形式の複雑さを指摘する声もあり、2007年度の大学入試センター試験（本試験）から、各段落の空所に適切な *topic sentence* や *main idea* を表す文を選ぶ形式に改訂された。その結果、正答率は50%～60%に上昇したが、それでも決して高い正答率ではない。河合塾の誤答分析¹³によると、1) パラグラフの*topic*を見出し、その後の展開が対比になっていることを読み取れないための誤答、2) 代名詞が受ける内容を把握できず、前後の文と文のつながりがわからないための誤答があるという。300語程度のまとまりのある文章を読解して、そのレトリック（比較・対照、高校生に日本語とは異なる英語のパラグラフの構成や論旨の展開の仕方）を的確に把握して読み進める指導の重要性を示唆している。

表6 第3問の小問（26～32）ごとの正答率¹⁴

小問	A		B		C		
	26	27	28	29	30	31	32
第1回	65.4	67.9	29.1	32.7	23.0	11.9	44.0
第2回	60.5	68.3	42.0	72.3	38.7	35.5	26.1
第3回	61.4	47.0	61.3	61.0	32.7	53.6	66.6

7.2.3 物語文で話者の意図や概要を把握する力（筆記問題 第6問）

例年、700～800字程度の物語性のあるテキストを読解して行間の意味を推測させる第6問の成績は低い。筆記問題の最後にあるため、時間切れが原因という指摘もあるが、実験結果（石塚他、2003）¹⁵から、第6問がいずれの位置に配置されても解答に時間がかかることにはかわりはないことが判り、事実関係の把握、作中人物の心情の理解など、まとまりのある話の全体像を把握する力が十分とは言えないことが明らかになった。

7.2.4 対話応答力（リスニングテスト 第2問）

対話文を聞き、話者の意図や言外の情報を把握する第2問には、「場面の状況を把握」したり、「内容的なつながりに重点を置いた柔軟な応答力」を求める設問が含まれている。それらの平均正答率は河合塾第1回模試で20%程度、第2回模試では40%弱と、他の設問に比べて低かった。「現役生は内容理解が十分にできず、聞こえた発話につられて誤答を選ぶ傾向が強い」と指摘されている。「定型表現」を暗記していれば正解が得られるのではなく、話の筋を追って、次にどう応答したらよいかを推測しながら聞ける力の養成が必要である。

7.2.5 モノローグの要点と概要把握力（リスニングテスト 第4問）

200語程度の少しまとまりのある話（モノローグ）の要点と概要を把握する問い（河合

(144)

塾第1回模試 第4問B) の正答率は32.9%と低く、「数の聞き取りや計算の要素が入ると正答率が下がる傾向にある」。想像力を必要とするモノローグ (第2回模試 第4問A) では、60~90語であっても正答率は48.6%程度であった。聞き取りの文の長さだけが問題なのではなく、数字をいくつか聞き取って簡単な計算をしたり、筋を追いながら情報を積み重ねて理解したりするリスニング力が弱いことがわかる。センター試験 (本試験) でも第4問に関して、「正解に結びつく情報が早い段階で提示された場合には正答率が低く、長文の場合、局所的には理解できても全体の論旨を問う問題になると極端に正答率が低かった」(大学入試センターの報告書,2007)¹⁶。例を挙げると下記のような英文である。

大学入試センター試験 2006年度リスニングテスト¹⁷ 問20

[読み上げられた英文]

My speech is about the trip I made to Europe last year. Last summer I decided to visit my cousin in Holland. There are direct flights to Amsterdam, where she lives, but I wanted to see France and Italy as well, so I caught a plane to Paris. I found a nice hotel in Paris that I liked very much, so I decided to stay longer and not go to Italy. After a week of visiting museums and shopping, I caught a train and went directly to Amsterdam. I really enjoyed that train ride!

[設問] How many countries did the speaker visit in Europe?

[選択肢]

- ① One. ② Two. ③ Three. ④ Four.

この問題では、下線部分の個々の情報を押さえ、それらを相互に関連付けて組み合わせることで理解しなければ、正解を導くことはできないように作成されている。すなわち、個別の重要な情報を聞き取りながら、話の展開を把握する力が求められている。

8. 全体のとらえ

客観テストの成績を分析した結果、日本の高校生は、いくつかの情報を組み合わせて話者の意図、明言されていないこと、要点・概要を理解することが苦手であることが明らかになり、本研究の仮説が検証された。具体的には、「まとまりのある叙述文」と「まとまりのある対話文やモノローグ」の読解と聴解の両作業において、日本の高校生は次の8つの課題をかかえていると思われる。

ともすると、英文の長さが長ければ長いほど、その読解や聴解の難易度が高くなると考えがちである。しかし厳密には、その長さ自体が問題なのではなく、例え短めの英文であっても、読解と聴解において次の8項目の力が弱いために、適切な言語活動が達成できない結果となっている。今後、これらの力の養成指導に一層の工夫と努力をして、授業改善に取り組んでいきたい。

- 1) 叙述文の構成や論理展開を把握する読解力
- 2) 文章の要点や概要を把握して自分の言葉で説明する力

- 3) いくつかの情報を組み合わせて、明言されていない事実や話者の意図を推測する聴解力と読解力
- 4) 物語文で話の展開、作中人物の心情、概要を理解する読解力
- 5) 対話文を聞いて言外の情報を聴解する力
- 6) 文章全体を聞いて要点を掴み、概要を把握する聴解力
- 7) まとまりのある対話文を聞いて場面を推測する聴解力
- 8) モノローグを聞いて要点や概要を掴む聴解力

注

- 1 文部科学省、『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』，開隆堂出版，1999，p. 33,46.
- 2 国立教育政策研究所教育課程研究センター，「平成 17 年度高等学校教育課程実施状況調査 教科・科目別分析と改善点 外国語 英語」，2007.
 〈http://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei_h17_h/〉
- 3 広島県教育委員会，「各教科・問題の分析と考察3外国語」，『平成17年度広島県高等学校共通学力テスト報告書』，平成18年3月.
 〈http://www.pref.hiroshima.lg.jp/kyouiku/hotline/06senior/2nd/17_gakuryoku/index.html〉
- 4 全統マーク模試：2006年5月，8月，10月実施
 河合塾，「第1回全統マーク模試 ANTENNA」，2006.
 河合塾，「第2回全統マーク模試 ANTENNA」，2006.
 河合塾，「第3回全統マーク模試 ANTENNA」，2006.
- 5 全国センター模試：2006年・2005年・2004年5月，7月，10月実施
 センター試験プレテスト：2006年・2005年・2004年11月実施
 代々木ゼミナール，『2004/2005 代ゼミ模試問題集 英語』
 代々木ゼミナール，『2005/2006 代ゼミ模試問題集 英語』
 代々木ゼミナール，『2008 年版 大学入試センター試験 実戦問題集 英語』，代々木ライブラリー，東京，2007.
- 6 国立教育政策研究所教育課程研究センター，「平成 17 年度高等学校教育課程実施状況調査 教科・科目別分析と改善点 外国語 英語」，2007，p.3(聴解力)，p.4(読解力).
 〈http://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei_h17_h/〉
- 7 広島県教育委員会，「各教科・問題の分析と考察3外国語」，『平成17年度広島県高等学校共通学力テスト報告書』，平成18年3月，pp. 102-110.
 〈http://www.pref.hiroshima.lg.jp/kyouiku/hotline/06senior/2nd/17_gakuryoku/index.html〉
- 8 広島県教育委員会，「各教科・問題の分析と考察3外国語」，『平成17年度広島県高等学校

-
- 共通学力テスト報告書』,平成18年3月, p.94, 102, 110.
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/kyouiku/hotline/06senior/2nd/17_gakuryoku/index.html>
- 9 広島県教育委員会,「各教科・問題の分析と考察3外国語」『平成18年度広島県高等学校共通学力テスト報告書』,平成19年3月, p.91, 120.
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/kyouiku/hotline/06senior/2nd/18_gakuryoku/index.html>
- 10 大学入試センター,「英語 第3問題作成部会の見解」,『平成17年度センター試験 試験問題評価委員会報告書』, pp.426-427.
<http://www.dnc.ac.jp/old_data/exam_repo/17/pdf/17hyouka56.pdf>
- 大学入試センター,「英語(リスニング) 第3問題作成部会の見解」,『平成18年度センター試験 試験問題評価委員会報告書』, pp.446-447.
<http://www.dnc.ac.jp/old_data/exam_repo/18/pdf/18hyouka62.pdf>
- 11 河合塾英語科,「2008 マーク式総合問題集 英語」,河合出版,2007, pp.5-6, p.8.
- 12 大学入試センター,「英語 第3問題作成部会の見解」,『平成17年度センター試験 試験問題評価委員会報告書』, p.427.
<http://www.dnc.ac.jp/old_data/exam_repo/17/pdf/17hyouka56.pdf>
- 13 河合塾, 前掲書, pp.14-15.
- 14 同上, p.14.
- 15 石塚智一・中畝菜穂子・内田照久・前川眞一・斎藤栄二・高橋貞雄・Steven Ross・清水裕子・根岸雅史・野澤健・杉野直樹,「英語試験問題における出題順序の効果について」,『大学入試研究ジャーナル』, No.13, 2003, pp.73-76.
- 16 大学入試センター,「英語(筆記) 第3問題作成部会の見解」,『平成19年度センター試験 試験問題評価委員会報告書』, p.382.
<http://www.dnc.ac.jp/old_data/exam_repo/19/pdf/19hyouka65.pdf>
- 17 教学社出版センター,『2008年度版 センター試験 過去問研究 英語』,教学社,東京,2007, p.18.

参考文献

- 大島尚編,『認知科学』,新曜社,東京,1986.
- 菅沢茂・佐藤勝昭・岡山隆之・桑原利彦(東京農工大学),「学力低下問題への対応—科学技術系大学における導入教育の在り方—」『大学入試研究ジャーナル』, No.16, 2006, pp.119-124.
- 大学入試センター,「英語(筆記)」『平成19年度センター試験 試験問題評価委員会報告書』, pp.367-370.
<http://www.dnc.ac.jp/old_data/exam_repo/exam_repo_index.html>
- 高梨庸雄・高橋正夫,『英語リーディング指導の基礎』研究社出版,東京,1987, pp.129-131.
- 千葉県総合教育センター,「思考力を高める学習指導法の研究(これからの時代に求められ

る思考力を明らかにしながら)『研究報告 第 362 号』, 平成 19 年 3 月, p.22.

〈<http://www.ice.or.jp/~kenso/H18sikou.pdf>〉

森 敏昭・中條和光編,『認知心理学キーワード』, 有斐閣, 東京, 2005.